

RYOBI

リョービ株式会社 2023年12月期 第2四半期 決算説明会

2023年8月9日



1. 2023年12月期 第2四半期決算実績	P. 3
2. 2023年12月期 通期業績予想	P.12
3. 事業別状況・トピックス	P.20
(1) ダイカスト事業	
(2) 住建機器事業	
(3) 印刷機器事業	
4. サステナビリティ ESG/SDGs	P.37
5. 財務戦略	P.41

1. 2023年12月期 第2四半期決算実績

決算のポイント

➤ 連結業績 増収・増益 (前年同期比)

(ダイカスト)

- ・ 売上は国内・海外ともに増収 半導体の供給制約緩和に伴って自動車生産の回復が進んだことに加え、円安により在外子会社の円換算額が増加したことで増収
- ・ 損益はエネルギー価格上昇等の影響はあったが、増収の効果などにより増益

(住建機器)

- ・ 売上は国内・海外ともに増収 損益は海外生産品の調達コストの上昇などにより減益

(印刷機器)

- ・ 売上は国内・海外ともに増収 国内は政府等の補助金による設備投資の促進効果に加え、海外は受注が堅調に推移し増収
- ・ 損益は生産性の改善や固定費の抑制に努めたものの、原材料価格高騰の影響などにより減益

➤ '23年12月期予想

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ 当第2四半期連結累計期間の増収増益に加え、今後の受注状況から、期首の予想を上回る見込み

実績サマリー

ウクライナ情勢、資源エネルギー価格の高騰、世界的な金融引締政策に伴う物価や為替の変動など不透明な状況の中、国内外で自動車生産の回復が進み前期比で増収増益

(単位：億円)

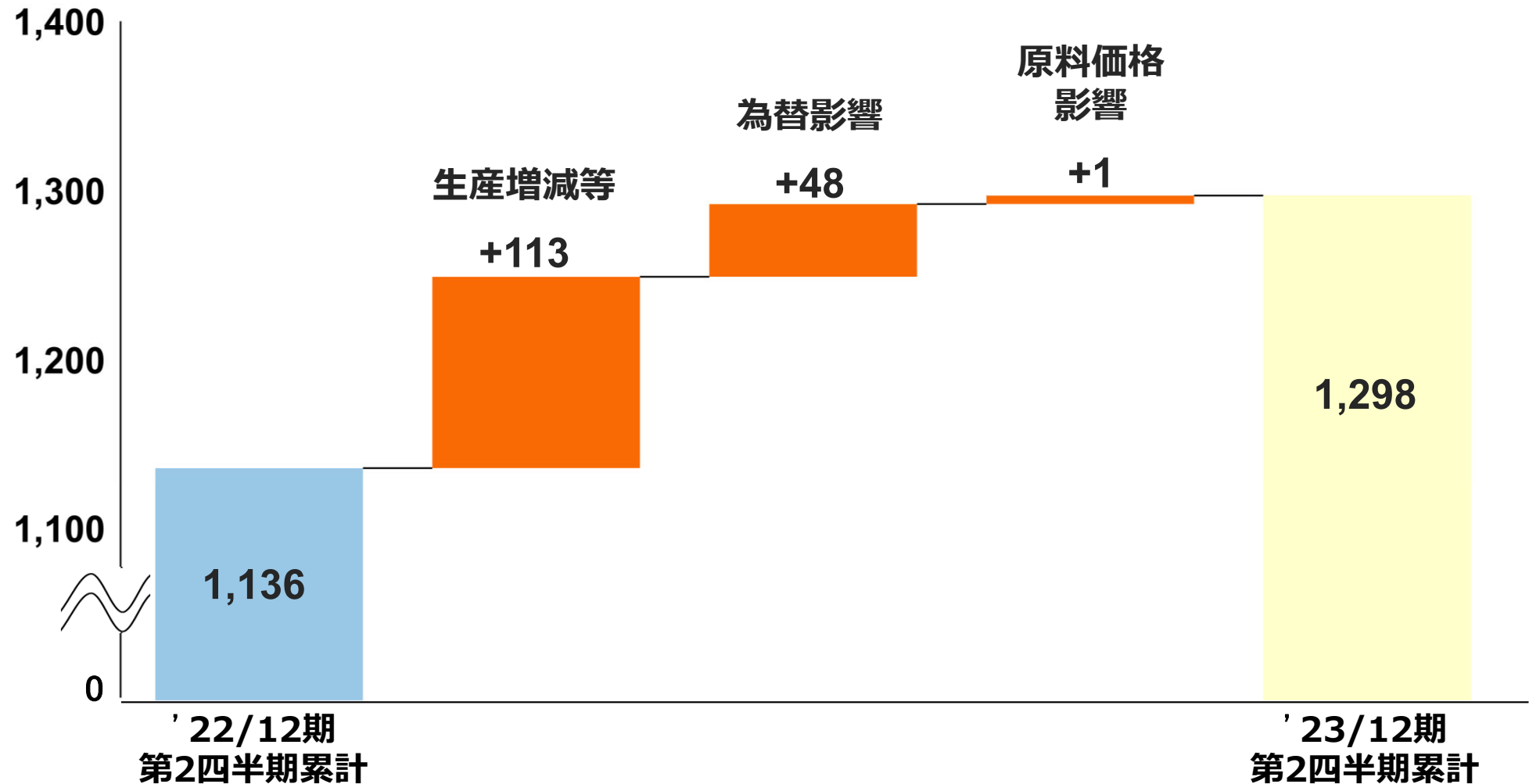
	'22/12期 第2四半期累計	'23/12期 第2四半期累計			
	実績	実績	前期差 (前期比)	業績予想※ (2/13)	業績予想差 (業績予想比)
売上高	1,136	1,298	162 (14.3%)	1,290	8 (0.6%)
営業利益	20	48	28 (136.7%)	25	23 (93.9%)
経常利益	31	61	30 (96.2%)	24	37 (152.8%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	18	43	25 (139.7%)	17	26 (154.8%)

※当該数値は2月13日公表の当初予想。7月20日に「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で、予想を修正している 5/48

売上高増減要因

前年同期比で、ダイカストの生産量が増加したことに加え、円安の影響により、**162億円の増収**

(単位：億円)

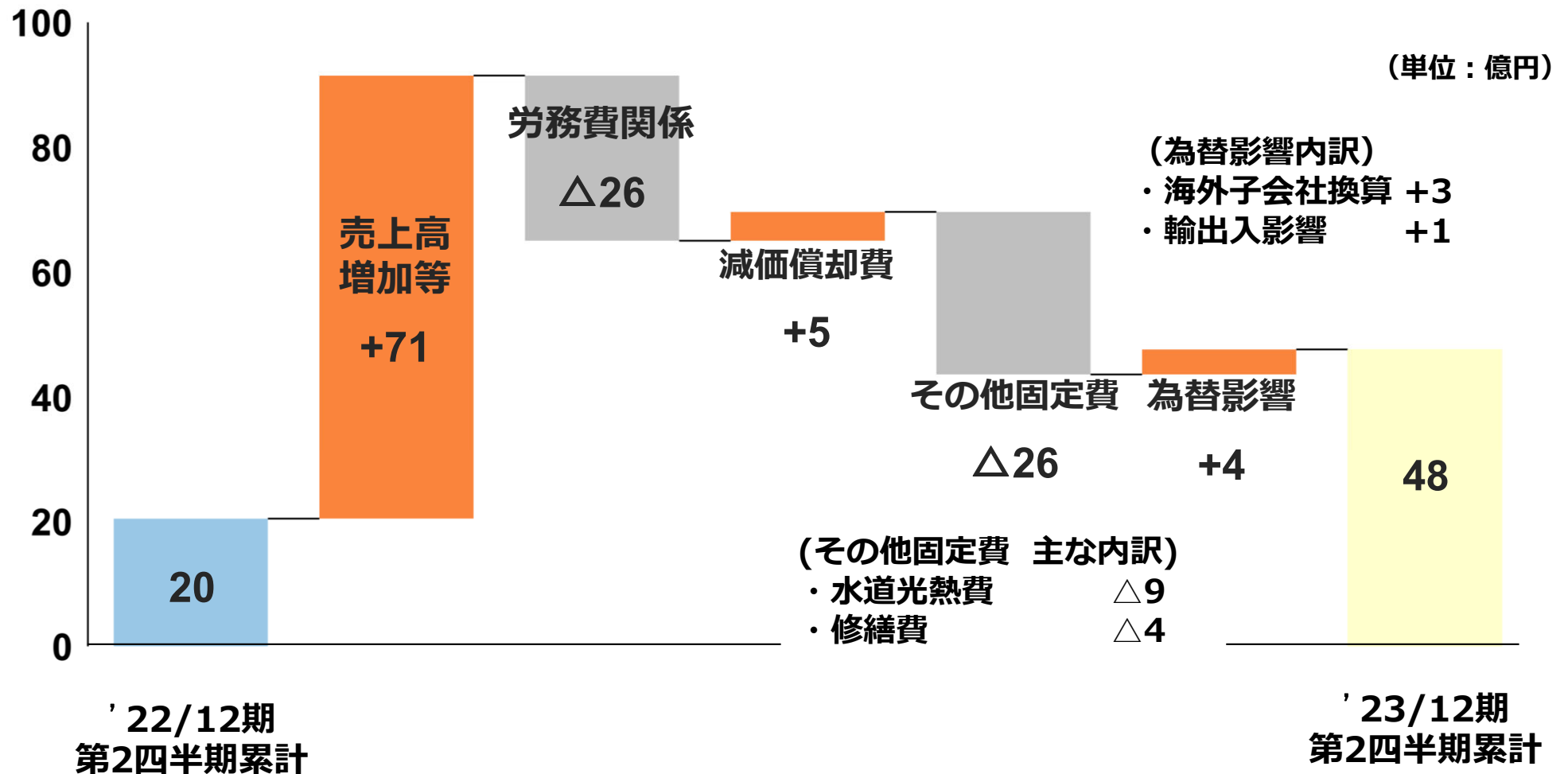


為替レート (期中平均)

	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'22/12期第2四半期	121.19円	158.62円	18.76円	3.61円
'23/12期第2四半期	134.42円	164.96円	19.39円	3.92円

営業利益増減要因

- ・ 増収効果により黒字化
- ・ 海外子会社での人員増等により労務費が増加
- ・ 国内外におけるエネルギー価格の上昇などにより その他固定費が増加



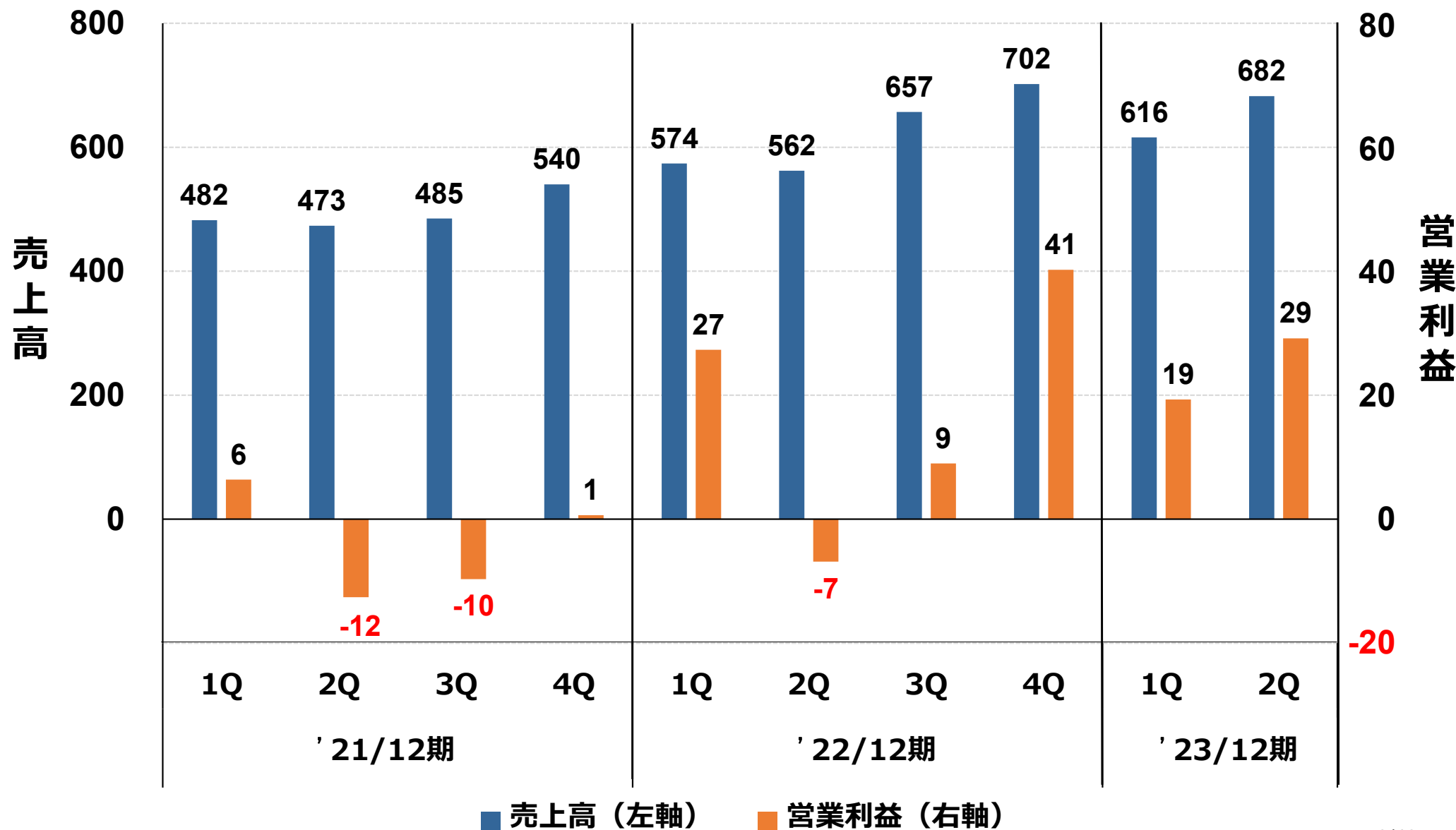
為替レート (期中平均)	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'22/12期第2四半期	121.19円	158.62円	18.76円	3.61円
'23/12期第2四半期	134.42円	164.96円	19.39円	3.92円

売上高、営業利益の推移 連結

当第2四半期は、自動車生産の回復に伴い、第1四半期比で増収増益

(単位：億円)

(単位：億円)



セグメント別実績

ダイカスト : エネルギー価格上昇等の影響あるが、自動車生産の回復で増収増益
 住建機器 : 国内外で増収 海外生産品の調達コスト上昇などにより減益
 印刷機器 : 国内外で増収 原材料価格高騰の影響により減益

(単位: 億円)

	'22/12期 第2四半期累計	'23/12期 第2四半期累計			
	実績	実績	前期差 (前期比)	業績予想※ (2/13)	業績予想差 (業績予想比)
売上高	1,136	1,298	162 (14.3%)	1,290	8 (0.6%)
ダイカスト	982	1,136	154 (15.7%)	1,124	12 (1.0%)
住建機器	49	52	3 (6.7%)	52	0 (0.3%)
印刷機器	105	110	5 (4.8%)	114	△4 (△3.8%)
営業利益	20	48	28 (136.7%)	25	23 (93.9%)
ダイカスト	12	44	32 (269.2%)	20	24 (118.6%)
住建機器	1	1	△0 (△18.4%)	1	0 (4.0%)
印刷機器	7	4	△4 (△47.8%)	4	△0 (△2.8%)

※当該数値は2月13日公表の当初予想。7月20日に「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で、予想を修正している 9/48

貸借対照表

総資産は前期比111億円増加、うち為替影響で104億円増加
 前期末の休日影響で現預金は43億円減少

(単位：億円)

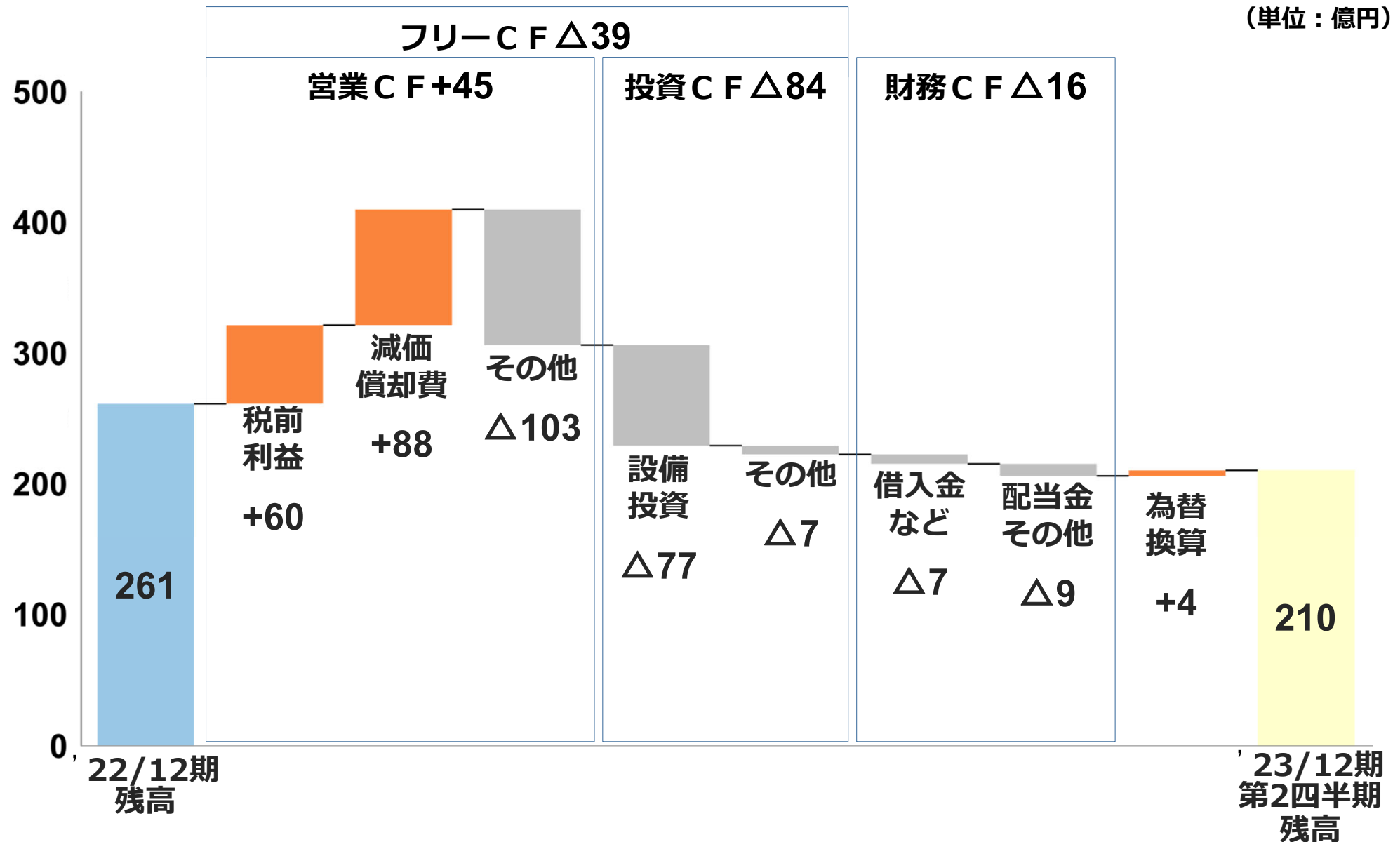
	'22/12期	'23/12期 第2四半期	増減	うち 為替影響		'22/12期	'23/12期 第2四半期	増減	うち 為替影響
流動資産	1,453	1,479	25	46	流動負債	1,147	1,127	△20	42
現預金	273	222	△51	5	仕入債務	465	426	△40	9
売上債権	583	609	26	19	短期借入金	465	482	17	19
有価証券	7	7	0	-	その他	217	218	2	14
棚卸資産	555	601	47	20	固定負債	419	433	15	8
その他	36	39	4	1	長期借入金	279	280	1	6
固定資産	1,549	1,635	86	58	その他	140	154	14	2
有形固定資産	1,239	1,277	37	52	株主資本	1,161	1,197	35	-
無形固定資産	28	28	△1	1	その他の包括利益 累計額	183	262	79	53
投資その他の資産	282	331	49	6	非支配株主持分	93	95	2	-
繰延資産	-	-	-	-	純資産合計	1,437	1,554	117	53
資産合計	3,003	3,114	111	104	負債・純資産合計	3,003	3,114	111	104

為替レート（期末日）

	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'22/12期	132.70円	160.00円	19.01円	3.80円
'23/12期第2四半期	144.99円	182.95円	19.94円	4.07円

キャッシュフロー増減

フリーCF△39億円のうち、前期末休日の影響は△43億円
 投資CF84億円の支出は、新規受注品等に対応した設備投資

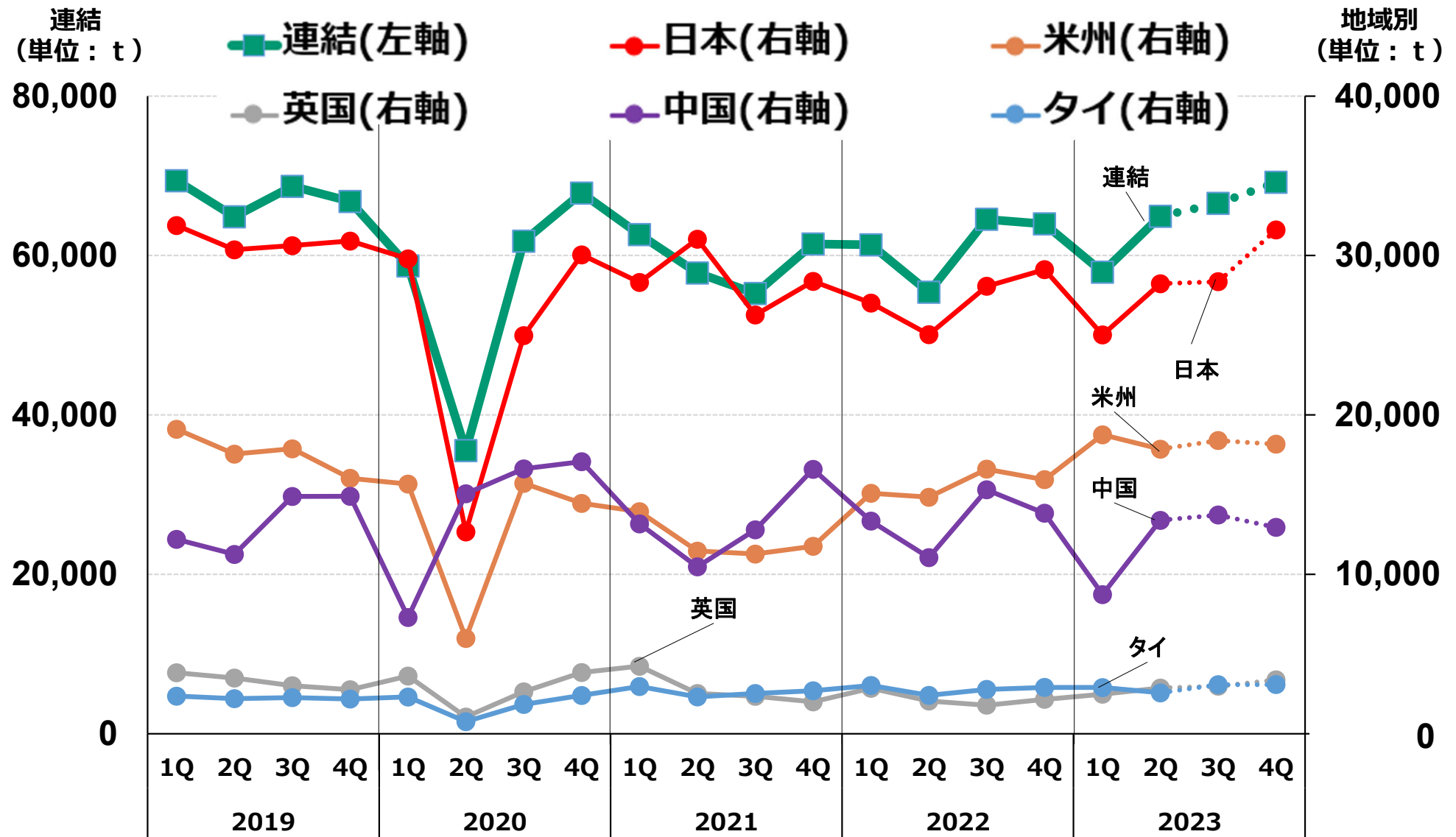


2. 2023年12月期 通期業績予想

ダイカスト生産重量の推移

引き続き半導体の供給制約緩和が進み、自動車生産が回復し生産量は増加すると予想
 下半期は日本の生産量が伸びる見込み

生産重量の推移(2019年第1四半期～2023年第4四半期)



※実線部は実績、破線部は見込を示す

生産量の増加に加え、原価低減や生産性の向上により前期比で増収増益を予想

(単位：億円)

	' 22/12期	' 23/12期	
	実績	業績予想	前期差 (前期比)
売上高	2,495	2,700	205 (8.2%)
営業利益	70	105	35 (50.7%)
経常利益	78	120	42 (54.0%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	48	84	36 (75.6%)

セグメント別業績予想

ダイカスト：自動車生産の回復に加え、原価低減、生産性の向上により増収増益を予想

住建機器：売上は増収 損益は引き続き調達コストの上昇の影響はあるものの増益を予想

印刷機器：売上は前期並 損益は固定費抑制などに努めるが原材料価格高騰で減益を予想

(単位：億円)

	' 22/12期	' 23/12期	
	実績	業績予想	前期差 (前期比)
売上高	2,495	2,700	205 (8.2%)
ダイカスト	2,157	2,357	200 (9.3%)
住建機器	101	110	9 (8.4%)
印刷機器	234	233	△1 (△0.5%)
営業利益	70	105	35 (50.7%)
ダイカスト	52	95	43 (81.5%)
住建機器	2	3	1 (32.3%)
印刷機器	15	7	△8 (△53.5%)

売上高、営業利益の推移 ダイカスト事業

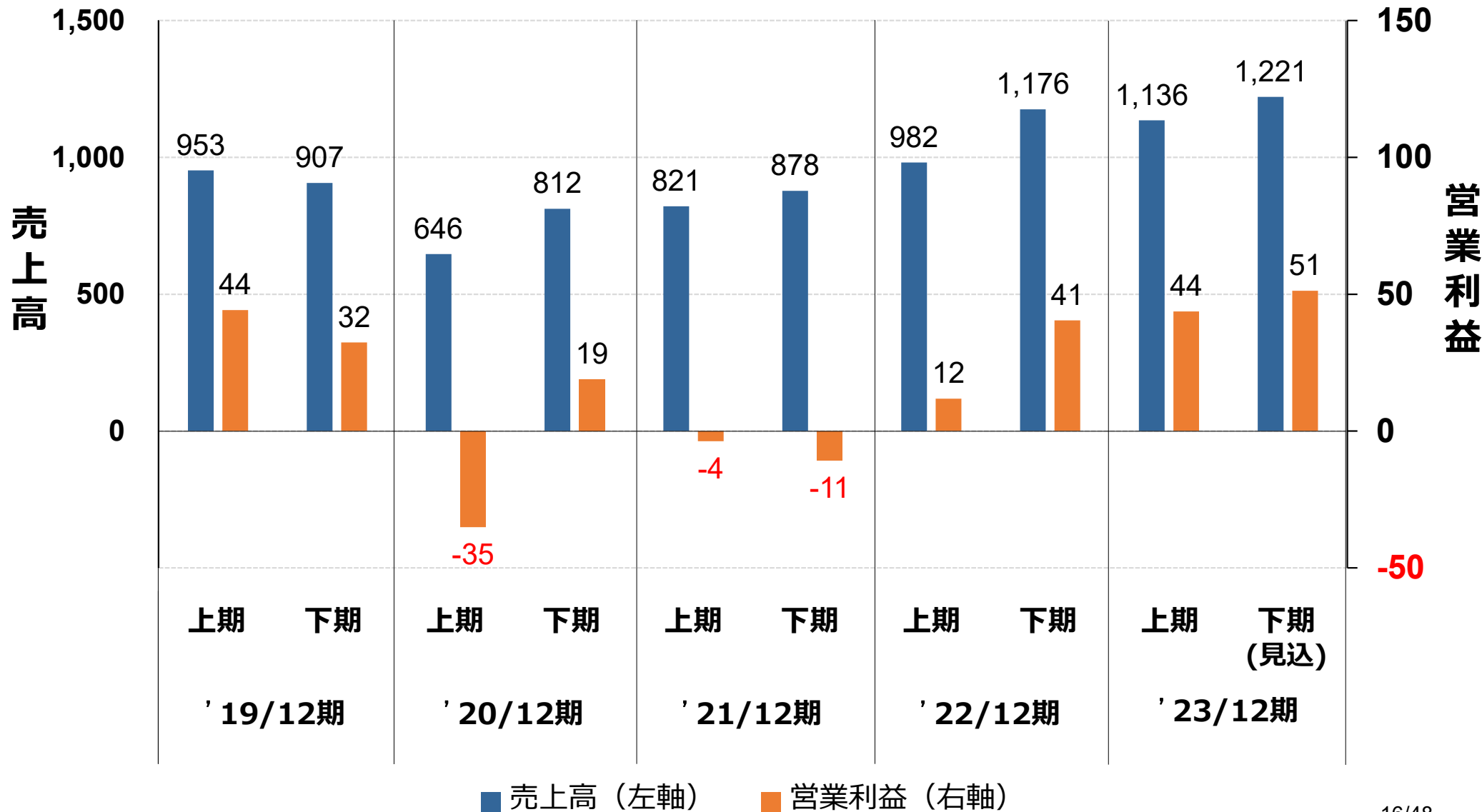
2. 2023年12月期 通期業績予想



自動車生産の回復に伴い、2023年下半期も堅調に推移し、前期比で増収増益を予想

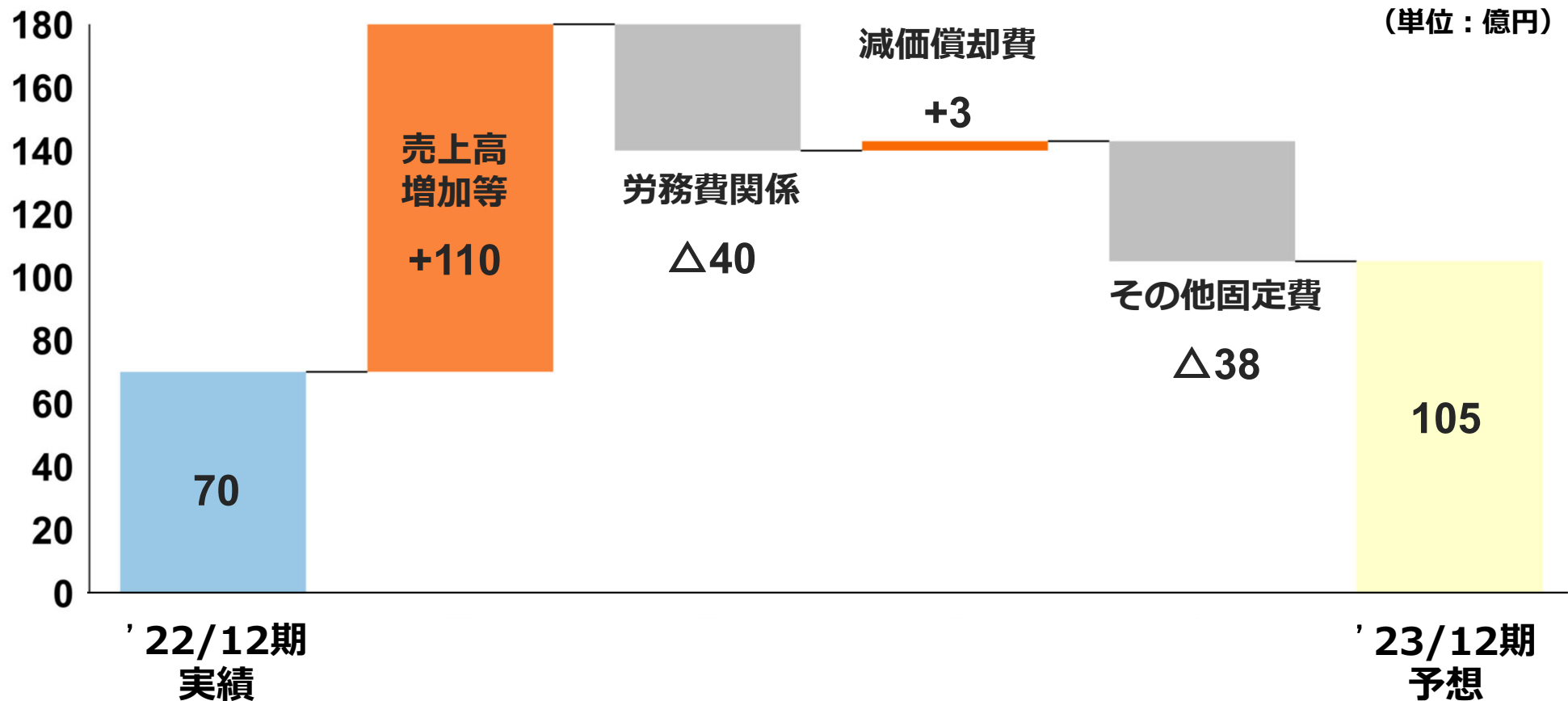
(単位：億円)

(単位：億円)



営業利益予想増減要因

生産の増加に伴い、主に海外拠点で労務費などの固定費が増加するが、国内外の増収効果により増益



為替レート (期中平均)	米ドル	英ポンド	中国元	タイバーツ
'22/12期	130.52円	161.52円	19.4円	3.72円
'23/12期 (予想)	135円	170円	19.5円	3.8円

為替が1%円高に変動した場合の年間営業利益への影響額

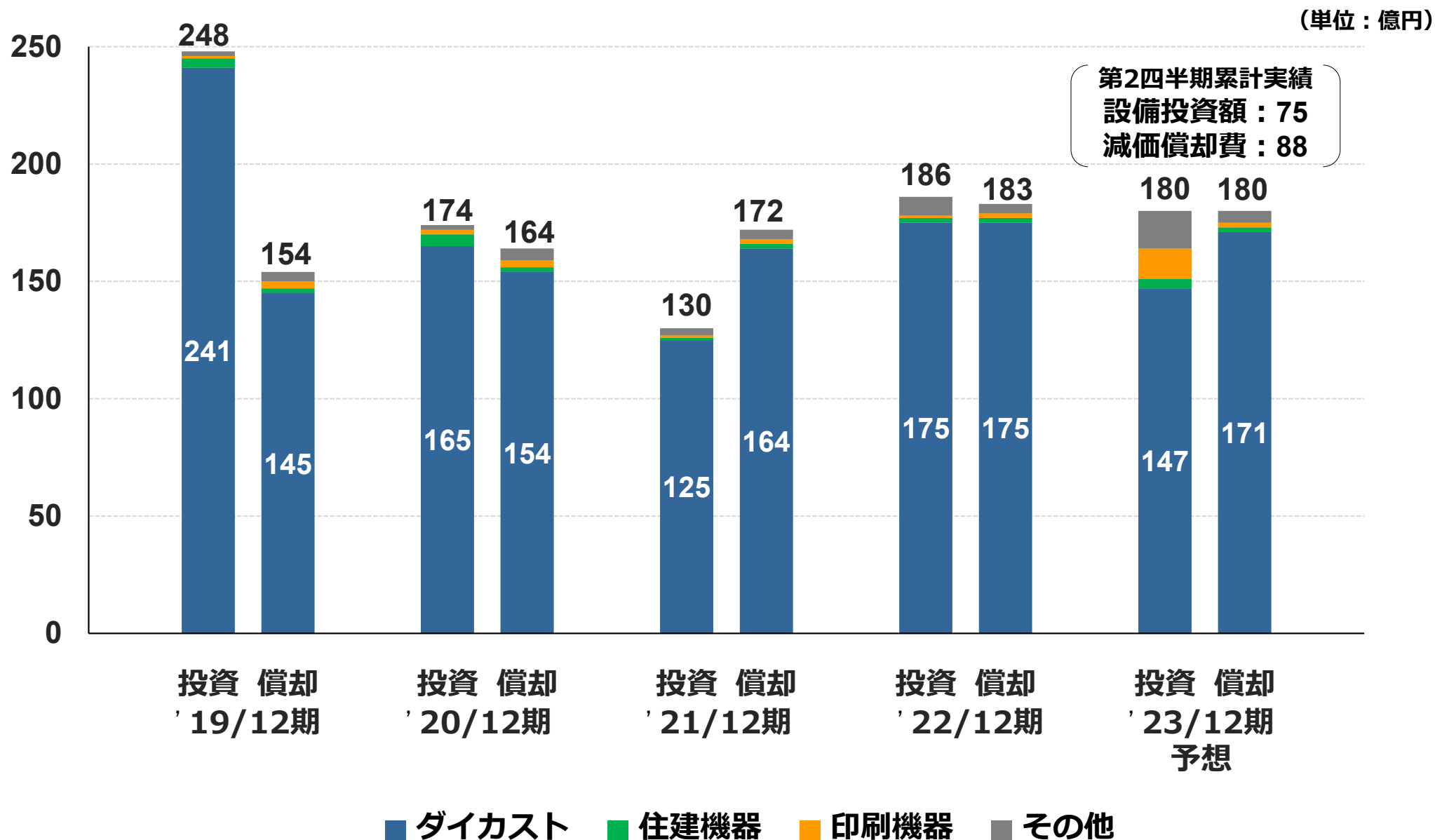
- 米ドル △100百万円
- 英ポンド △20百万円
- 中国元 +20百万円

設備投資・減価償却費推移

2. 2023年12月期 通期業績予想



2023年12月期は、投資は180億円、償却費は180億円を予想
(前回予想から変更なし)

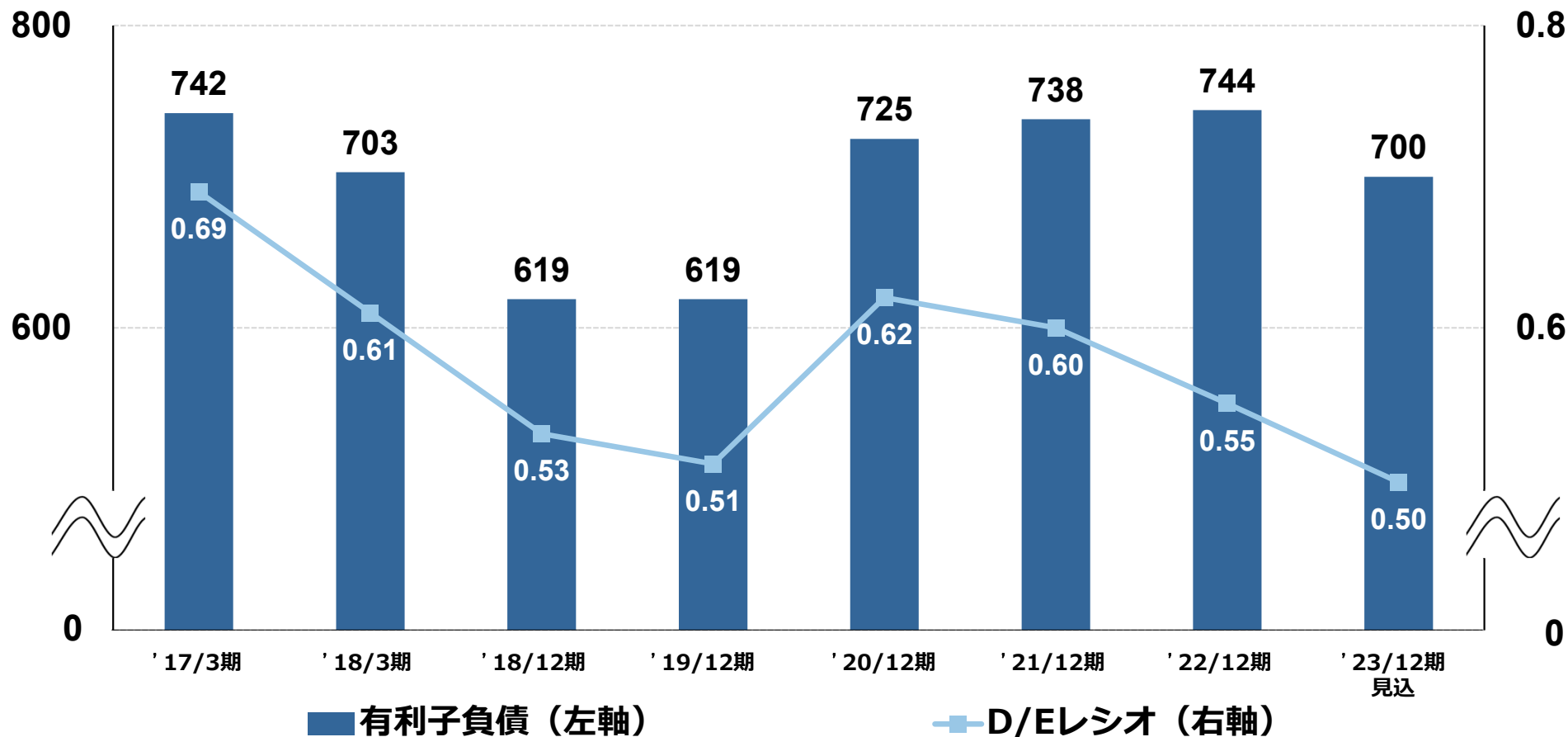


有利子負債・D/Eレシオ推移

2023年12月末の有利子負債残高は700億円を予想（前回予想から変更なし）
D/Eレシオは0.5倍以下を目標

(単位：億円)

(単位：倍)

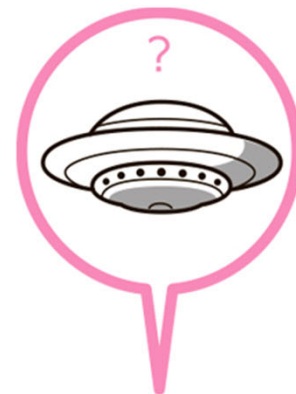


■ 有利子負債 (左軸)

■ D/Eレシオ (右軸)

	'17/3期	'18/3期	'18/12期	'19/12期	'20/12期	'21/12期	'22/12期	'23/12期 見込
借入金依存度 (有利子負債/総資産)	28.2%	25.8%	23.0%	23.5%	28.0%	26.4%	24.8%	23.3%

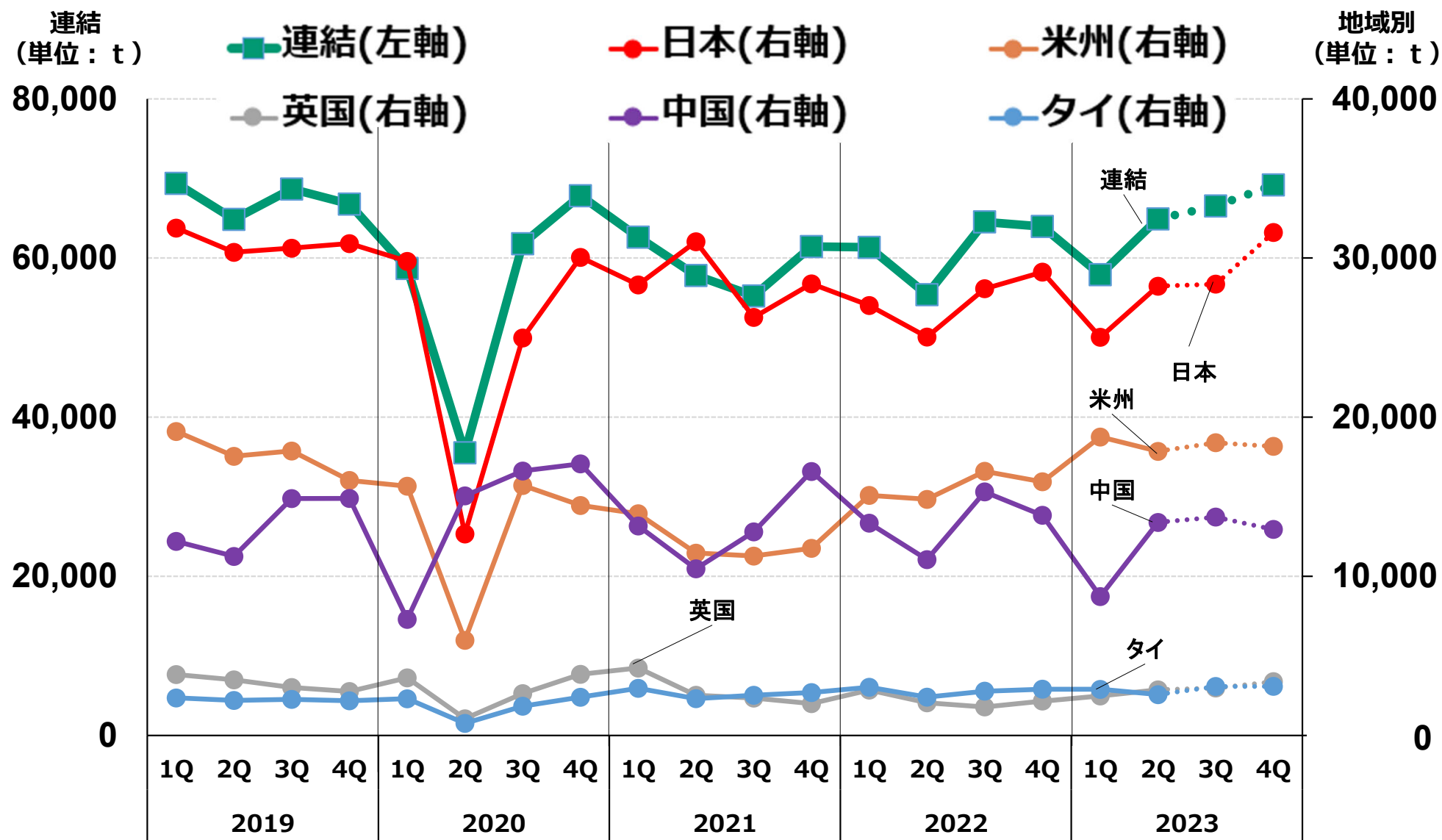
3. 事業別状況・トピックス



ダイカスト生産重量の推移

引き続き半導体の供給制約緩和が進み、自動車生産が回復し生産量は増加すると予想
 下半期は日本の生産量が伸びる見込み

生産重量の推移(2019年第1四半期～2023年第4四半期)



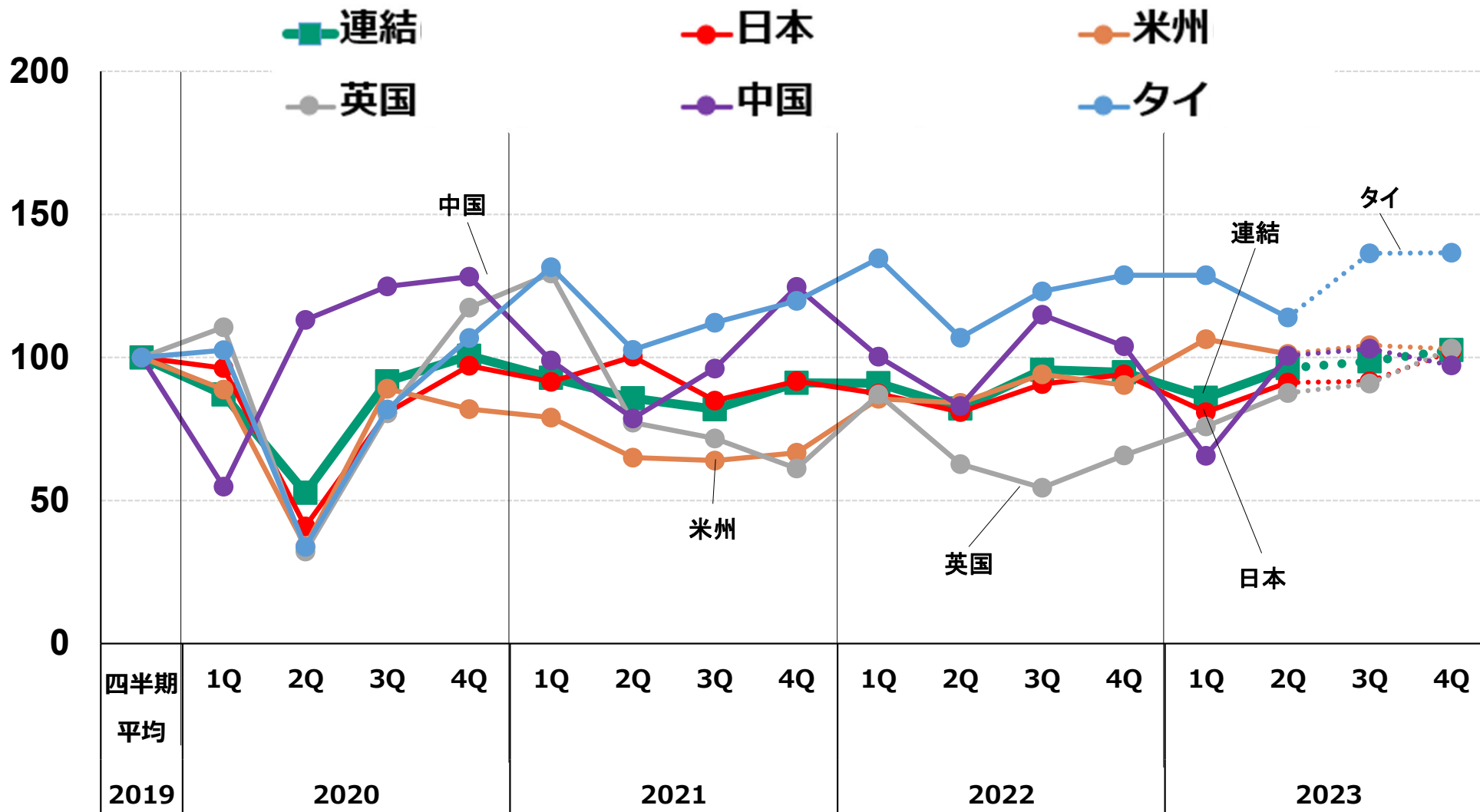
※実線部は実績、破線部は見込を示す

ダイカスト生産重量の推移

生産重量は、すべての地域で、期末に向けて2019年12月期並まで回復

生産重量の推移(2020年第1四半期～2023年第4四半期)

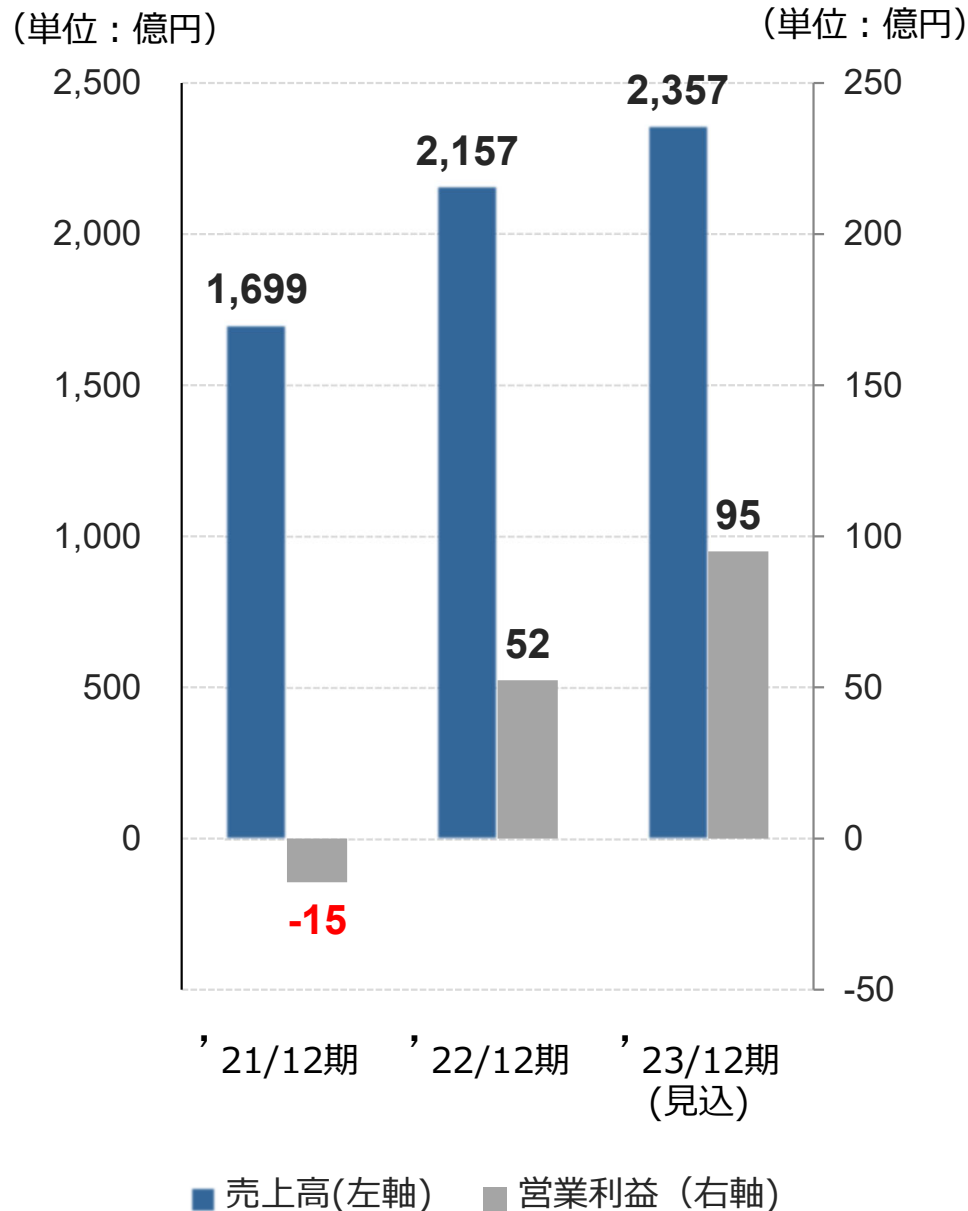
(単位：%)



※2019年12月期の四半期平均を100%としている
 ※実線部は実績、破線部は見込を示す

ダイカスト事業 -サマリー-

売上高・営業利益の見通し



'23/12期 地域別状況

(日本)

半導体等部品不足が解消しつつあり、自動車生産は回復傾向

(米州)

生産量増加、新規品立上げにより増収
人員増・賃金上昇で労務費負担は増加傾向

(英国)

新規品立上げの遅れはあるが自動車生産の回復で増収

エネルギー価格は高止まりで推移

(中国)

自動車生産の回復に伴い、第2四半期から業績は回復基調

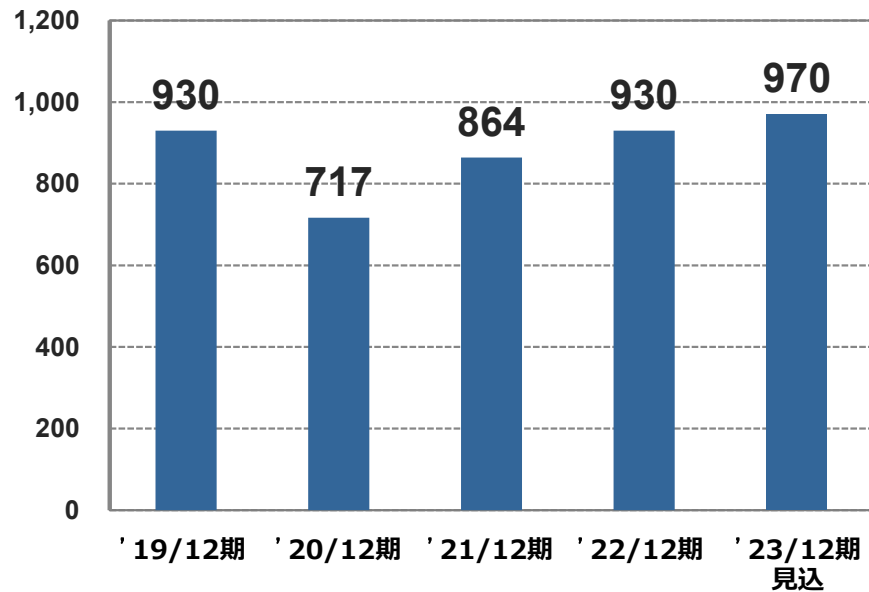
(単位：億円)

売上高	'21/12期	'22/12期	'23/12期 (見込)
日本	864	930	970
米州	314	582	722
英国	106	130	169
中国	346	426	399
タイ	68	89	97

ダイカスト事業 -日本-

売上高推移

(単位：億円)



事業環境

- 半導体等部品不足が解消しつつあり、自動車生産は回復傾向
- 国内電動化の中心はHEVであるが、OEMのBEV化に向けた開発も加速
- OEMは研究開発に資金投入、鑄造機更新投資抑制、外注活用の動き
- 軽量化ニーズの高まり(鉄からアルミへの置き換え)

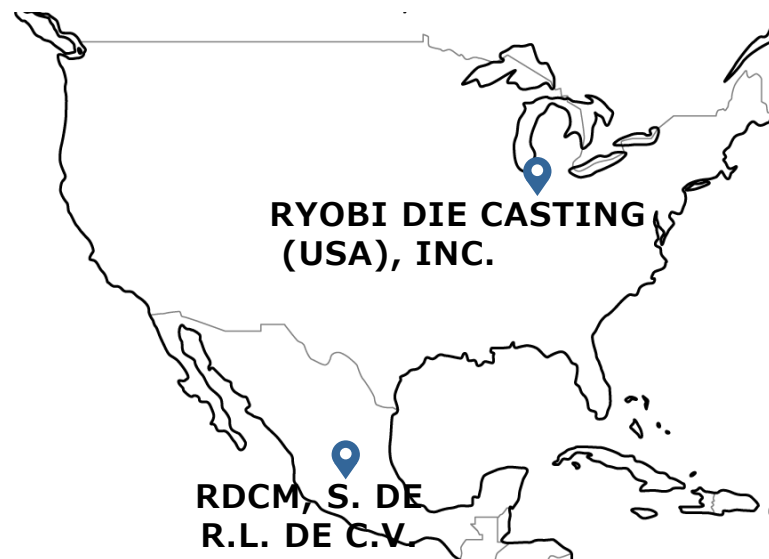
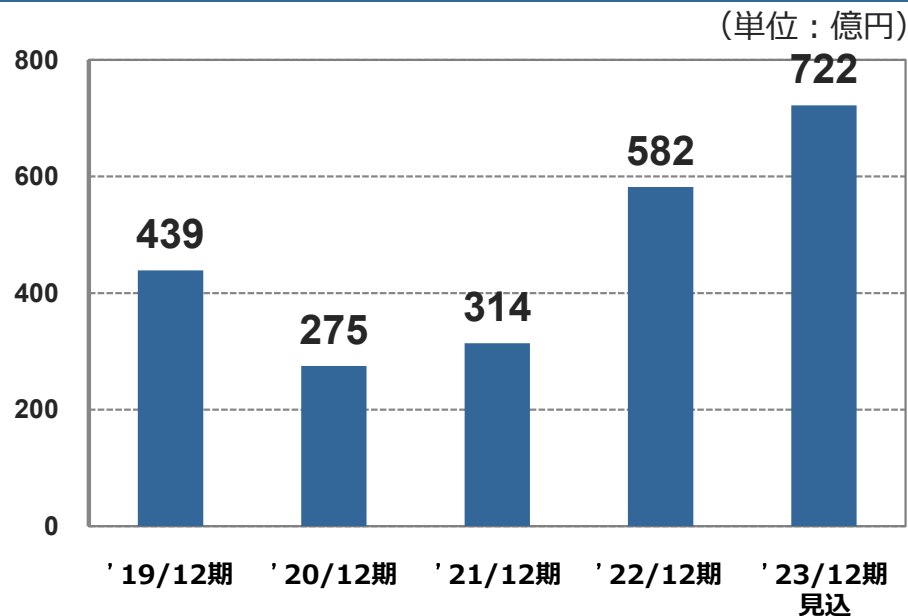
主要な取組み

- 戦略製品（軽量化・電動化部品）の開発提案から新規品受注獲得に注力
- 戦略製品の生産体制構築（ギガキャスト対応に向けた投資等）

リョービ
広島東工場

ダイカスト事業 -米州-

売上高推移



事業環境

- 2023年米国新車販売は（1-6月累計）約13%増加
- 部品不足は解消傾向にあり今後の生産は増加傾向
- インフレ抑制法における「EV補助プログラム」対象車種は米国製のみであるが、当社生産部品の多くは対象車種に搭載予定
- 懸念材料は賃金上昇に伴う労務費増、急激な利上げに伴う資金調達環境の悪化、自動車購買意欲の低下など

主要な取組み

- スムーズな新規品立上げと生産性の向上
- 主要顧客の戦略製品(軽量化・電動化部品)受注獲得



RYOBI DIE CASTING (USA), INC.

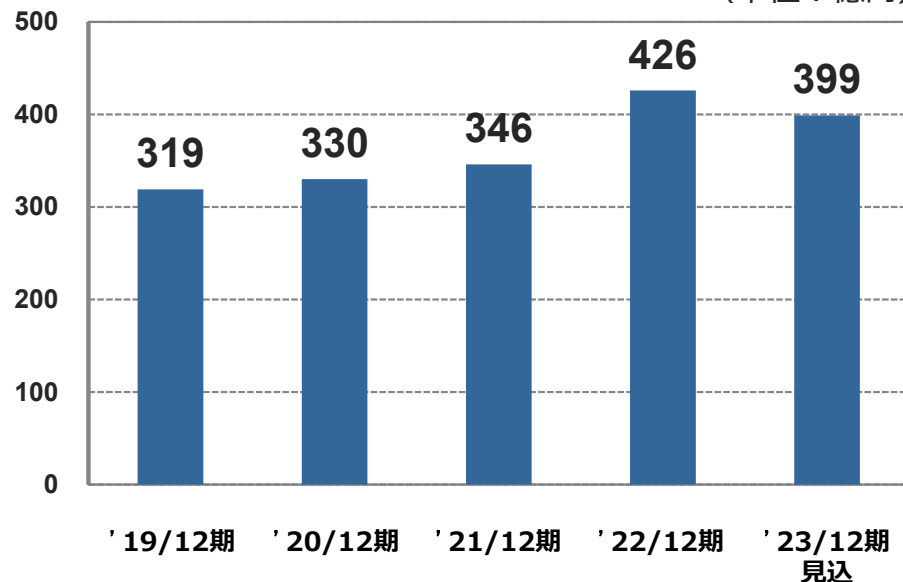


RDCM, S. DE R.L. DE C.V.

ダイカスト事業 -中国-

売上高推移

(単位：億円)



事業環境

- HEV車を低燃費車として優遇するが、車両取得税免税、ナンバープレート取得容易なBEVが優勢
- ゼロコロナ政策解除後の自動車生産は回復基調
- BEV・PHVは堅調に伸びているが、HEVは苦戦

主要な取組み

- 優良顧客との関係強化と拡販
- 中国内での生産体制最適化 既存設備の有効活用

RYOBI DIE CASTING
DALIAN CO., LTD.RYOBI DIE CASTING
CHANGZHOU CO., LTD.RYOBI DIE CASTING
CHANGZHOU CO., LTD.

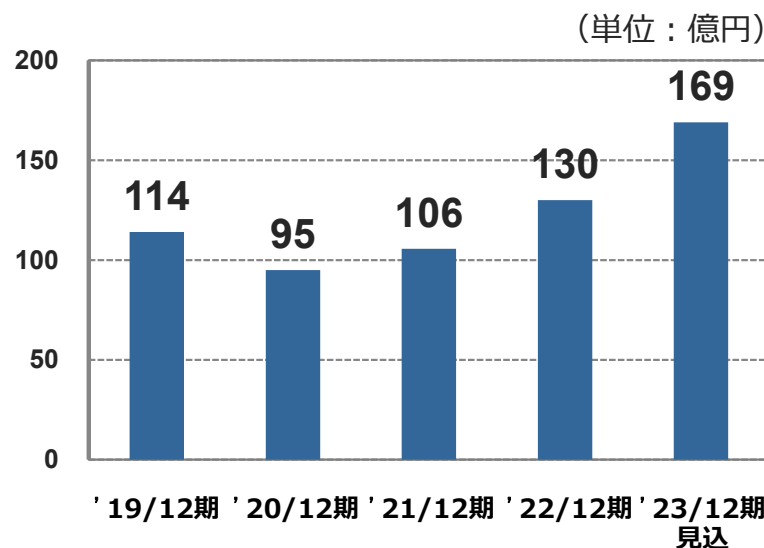
ダイカスト事業 -英国・タイ-

英国



RYOBI ALUMINIUM
CASTING (UK), LIMITED

売上高推移



事業環境

- 部品供給問題の緩和により、欧州全体での自動車生産は微増
- エネルギー価格高騰に対する価格転嫁を引続き強化
- 政策金利上昇(自動車販売減速懸念)

主要な取組み

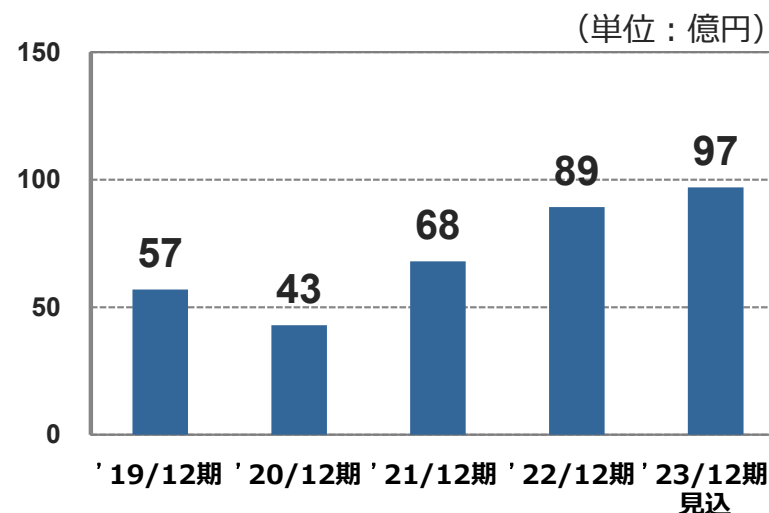
- 生産性の向上(外注活用)
- 営業部門の強化と新規受注獲得(日本との連携強化)

タイ



RYOBI DIE CASTING
(THAILAND) CO., LTD.

売上高推移



事業環境

- 半導体不足の解消が進み、自動車生産が回復
- タイ国内でのダイカスターの競争は少ない

主要な取組み

- 日系の現地化案件を中心とした新規品受注獲得
- 生産性の向上(数量増加等にも対応可能なフレキシブルな生産体制の確立)

ダイカスト事業

軽量化・電動化への取組み -ギガキャストへの取組-

専業メーカーとして日本初となる6,000Tクラスのダイカストマシンを導入

- ◆ 次世代ダイカスト技術の導入・開発を加速
(大型構造部品を一体成形し、コストダウンやCO₂排出量削減を図る)
- ◆ 大型構造部品の試作サービス事業を強化

(設備投資の概要)

投資金額 : 合計約50億円
 鋳造機 (6,000Tクラス 1台) 及び付帯設備
 金型加工設備、建屋及び工場設備、その他

生産品 : 大型アルミダイカスト製品(ボディ、バッテリーケース等)

設置場所 : 菊川工場敷地内

稼働開始予定 : 2025年3月



菊川工場



菊川工場所在地

ダイカスト事業

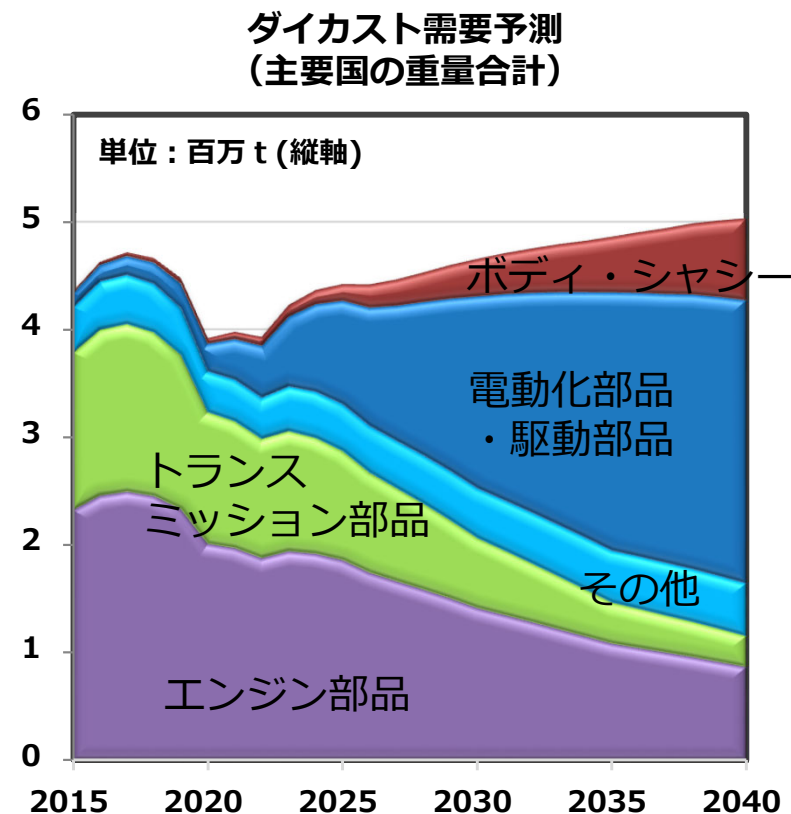
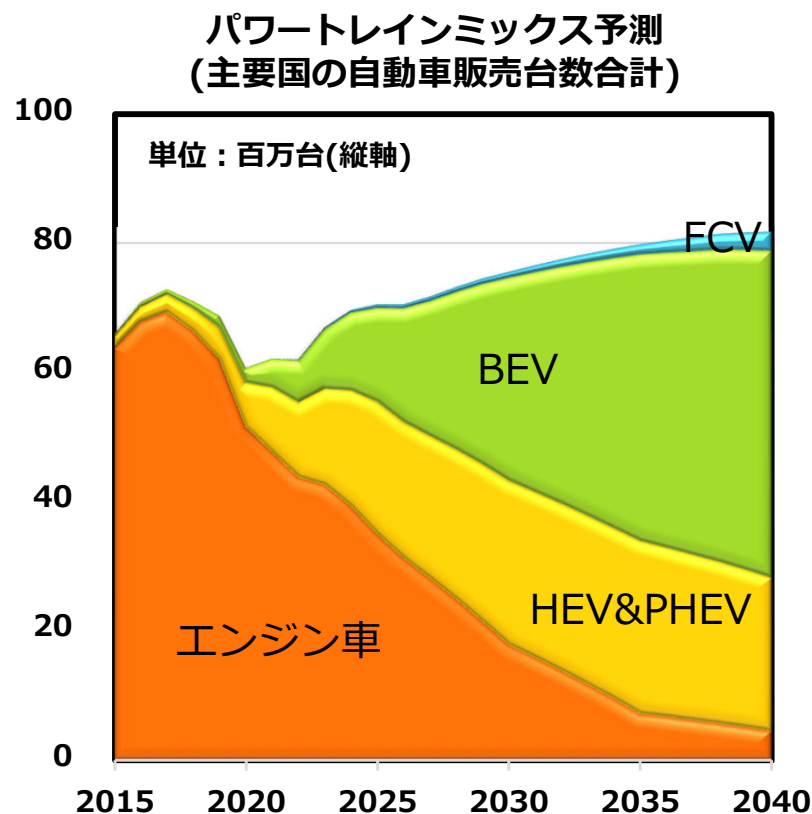
軽量化・電動化への取組み -ダイカスト事業の外部環境-

- 2040年頃までは自動車販売台数は増加
- BEVシフトは着実な進展あり
- トランスミッション・エンジン部品は縮小するが、ボディ・シャシー、電動化部品は増加するため、ダイカスト全体の需要は増加

販売台数ベース

主要国：日本、欧州、米国、中国、インド

2022年10月時点当社予測



ダイカスト事業

軽量化・電動化への取組み -人とするまのテクノロジー展に出席-

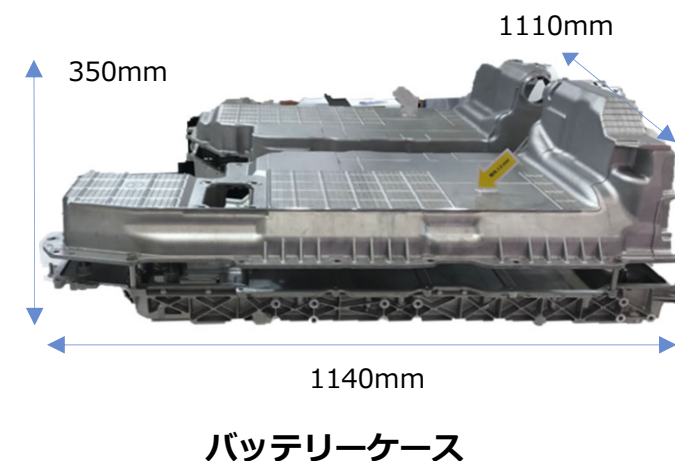
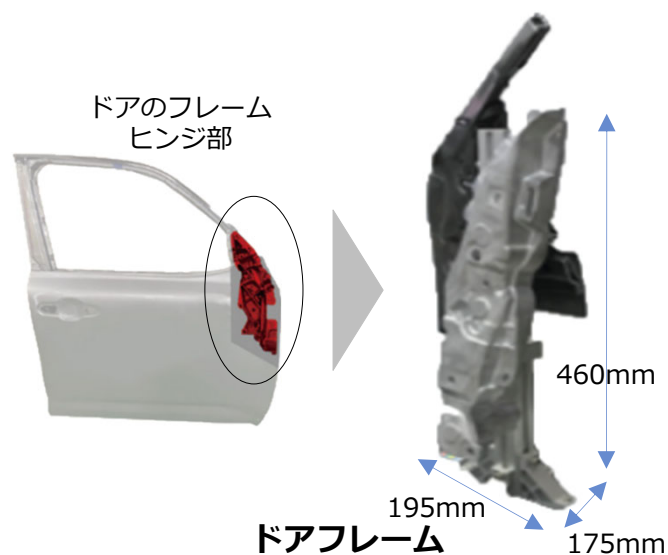
電動車向けに開発した製品やボディ・シャシーなどの量産製品などを多数展示し、軽量化・電動化に向けた様々な提案を実施

主な展示内容

- ・ 軽量化ニーズに応えるボディ・シャシー製品
(ドアフレーム)
- ・ GDスクイズ工法による厚肉高強度製品
(ナックル)
- ・ 電動車向け開発品 (バッテリーケース、
eアクスルケース、モーターケースなど)



展示例

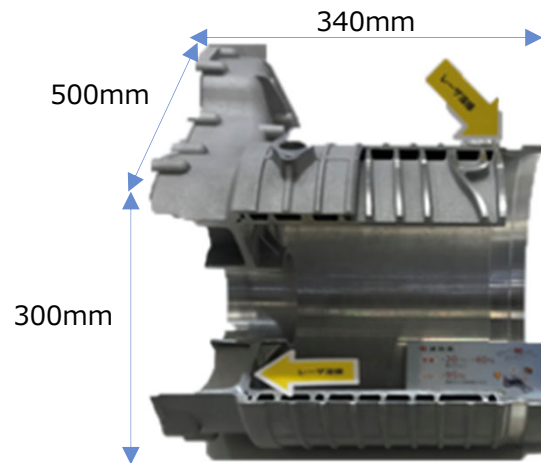
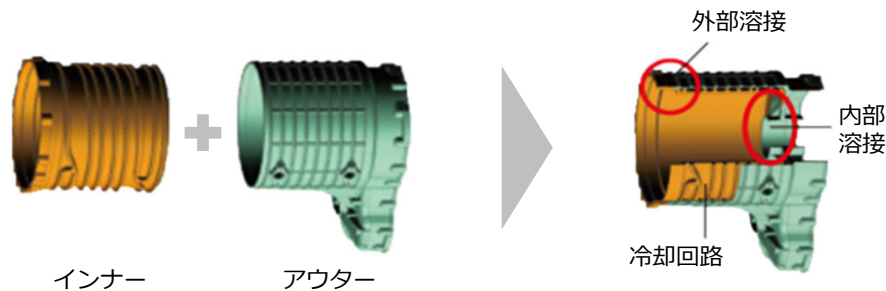


ダイカスト事業

軽量化・電動化への取組み -人とくるまのテクノロジー展に出展-

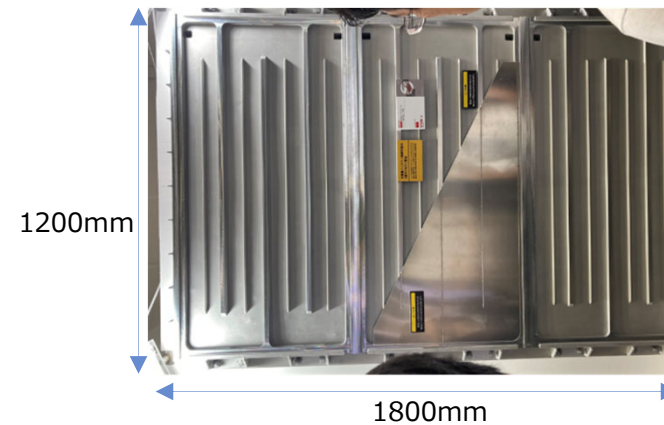
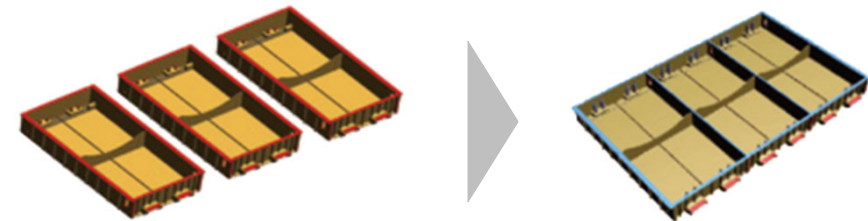
従来不可能とされていたレーザー接合技術を用いた電動化部品の開発例を展示
ギガキャスト以外での軽量化やコスト削減に貢献できる大型部品事例を提案

eアクスルケースの事例
2ピースの接合で冷却回路を成型



- ボルト締結からレーザー溶接による一体化提案
- 部品点数削減による、材料や組立工数などの削減

バッテリーケースの事例
溶接による複数個のケースを接合



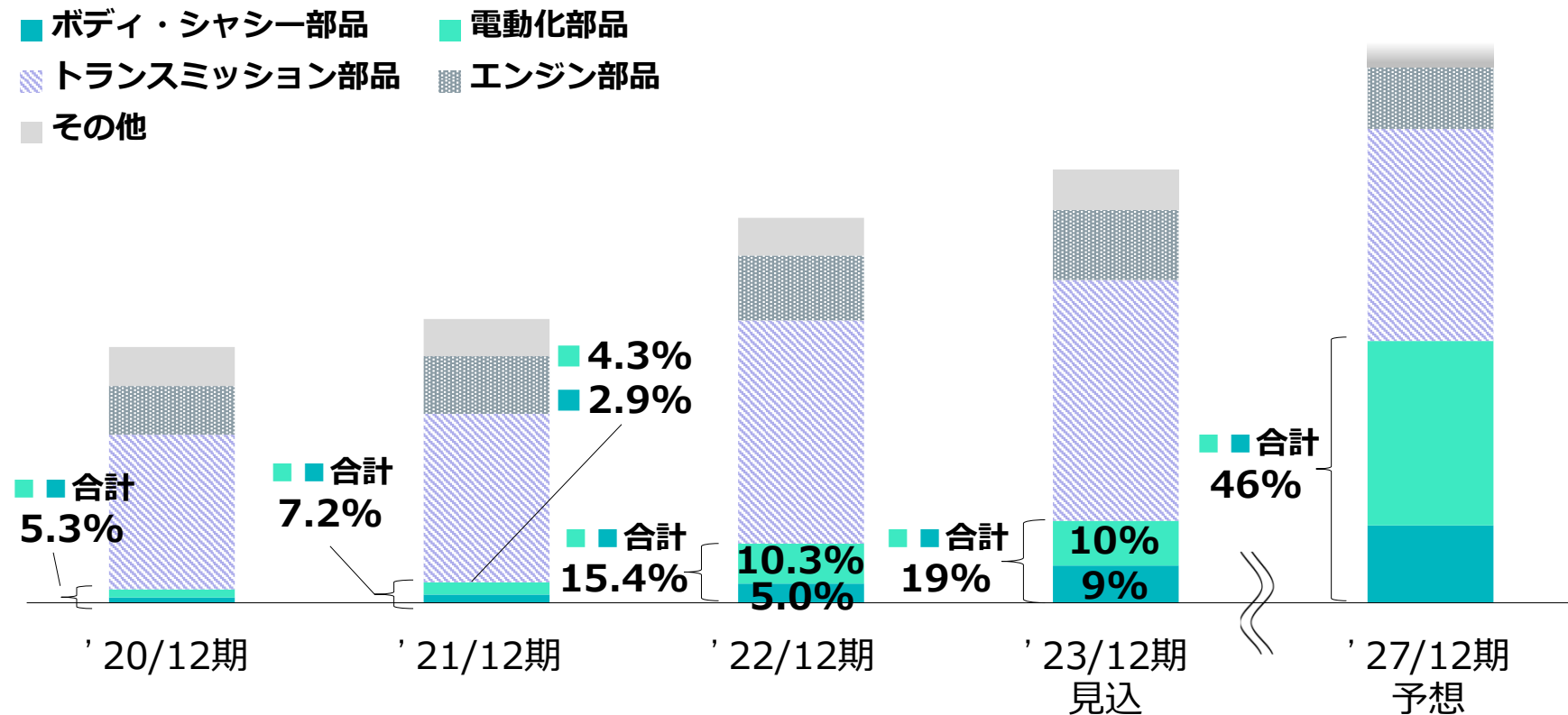
- レーザー溶接によるバッテリーケースの大型化提案
- バッテリーケースの大型化による、電池容量の拡大

ダイカスト事業

軽量化・電動化への取組み -戦略製品の売上高構成比-

- 軽量化・電動化部品の受注は増加基調を堅持
- 2022年実績は、新規受注のうち約78%が軽量化・電動化部品 (2020年実績 38%、2021年実績55%)
- 2027年には売上高総構成比の5割弱に拡大と予想

部品カテゴリーごとの売上高構成比



住建機器事業

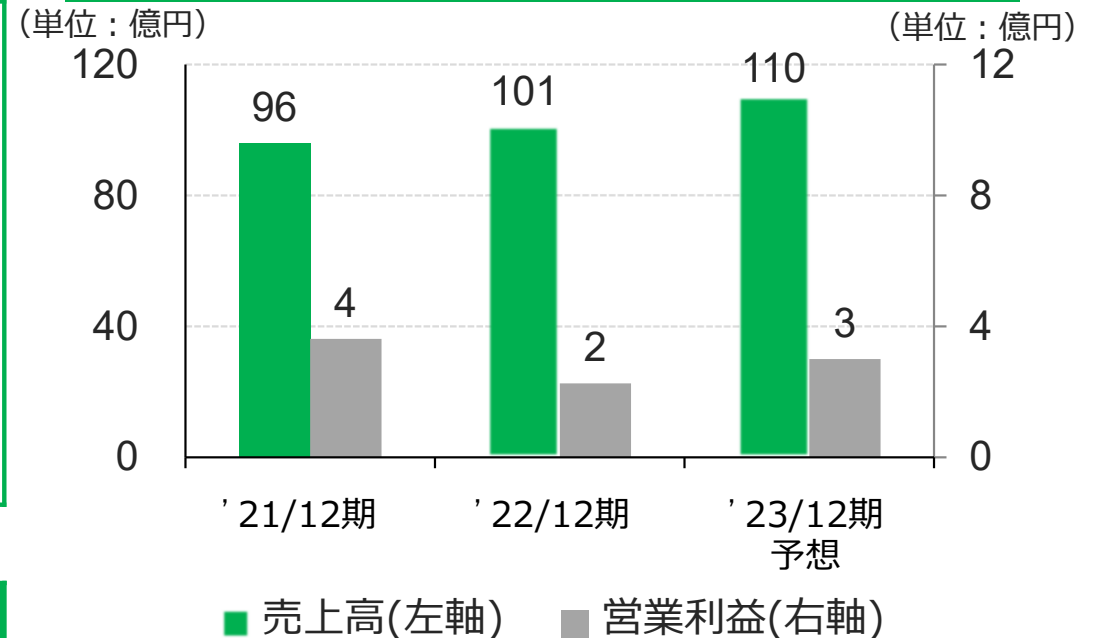
事業環境

- 国内は住宅市場は減少、ビル（非居住）市場は横ばいで推移していく見込
- 原材料の高騰
- 住環境における非接触需要の高まり
- 国内におけるリフォーム・リノベーション需要の高まり

主要な取組み

- 国内市場でのシェア拡大
- 高付加価値製品（次世代の主力製品）の売上拡大
- 海外市場での売上高拡大
- サプライチェーンマネジメントの推進

売上高・営業利益の見通し



業績概要

- ('23/12期 第2四半期)
売上高は国内外ともに増収 損益は海外生産品の調達コストの上昇などにより減益
- ('23/12期 通期)
売上高は国内外ともに増収 損益は増収による増益を予想

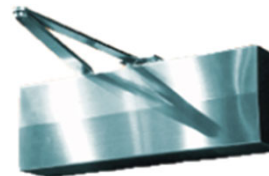
住建機器事業

住建機器事業のトピックス

2023年6月に開催された「理想のすまいと建築フェア」に出展し、電動式ドア開閉装置RUCADのコンセプトモデルや欧州や北米向けのドアクローザなどを展示

理想のすまいと 建築フェア

ブースの様子



停電時自閉機能搭載のコンセプトモデル

概算寸法(カバー部)
幅408×奥行71×
高さ109(単位: mm)

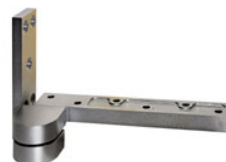


外部機器との連動イメージ

商業施設などドア重量180kgまで対応した
GEOPROシリーズのピボットヒンジGP-18を展示



概算寸法(単位:mm)
幅108×奥行75×高さ35



概算寸法(単位:mm)
幅200×奥行80×高さ120



欧州や北米など世界中で
活躍するドアクローザや
フロアヒンジなどを展示

印刷機器事業

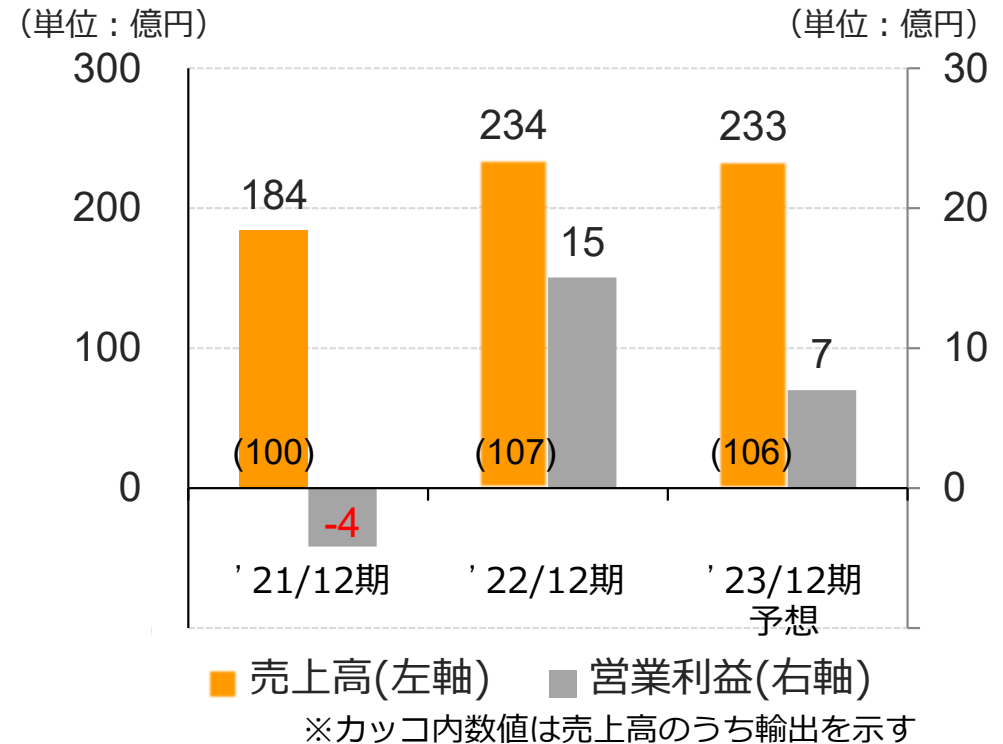
事業環境

- 印刷機オペレーターの人員不足や高齢化による自動化・省力化の要求
- 商品パッケージ（包装）印刷は堅調
- 紙の供給量と価格高騰による印刷離れ
- リーマンショック・コロナ禍を経て印刷機器のプレイヤーは減少（日本2社・ドイツ3社）

主要な取組み

- 印刷関係企業とのアライアンスを通じた参加企業との協業や新規事業
- 印刷機の自動化・省力化・アシスト機能の開発
- 主力機種種の受注拡大、コストダウンによる価格競争力の向上
- 商品パッケージ印刷用機種種の販売強化
- 原材料価格高騰の売価への転嫁

売上高・営業利益の見通し



業績概要

- ('23/12期 第2四半期)
売上高は、国内外ともにほぼ横ばい。損益は、原材料価格高騰の影響により減益
- ('23/12期 通期)
売上高は、国内外ともにほぼ横ばい。損益は、引続き原材料価格高騰の影響などにより減益を予想

印刷機器事業

印刷機器事業のトピックス

第3工場の建設



RMGT第1工場、第2工場隣接地への増設によって、点在していた工場を集約し、生産体制の最適化や生産性の向上を図る

- ・ 所在地 : 広島県府中市
- ・ 施設用途 : 枚葉オフセット印刷機の組み立て
- ・ 着工予定 : 2023年1月
- ・ 完成予定 : 2023年10月
- ・ 延床面積 : 4.4千m²
(延床面積 第1工場 : 10.0千m²、第2工場 : 19.3千m²)

PRINT CHINA 2023



2023年4月、中国の販売代理店DINGA社と共に、広東現代国際展覽センターで開催された国際印刷機材展

「PRINT CHINA 2023」へ出展し、主にパッケージ印刷向けの商品を展示

- ・ 出展者数 : 1,200社
- ・ 入場者数 : 190,000人
- ・ 出展機 : RMGT1060(B1サイズまで対応)
RMGT970(菊全判まで対応)

4.サステナビリティ ESG/SDGs

セカイが軽スル
カンパニー



サステナビリティ ESG/SDGs

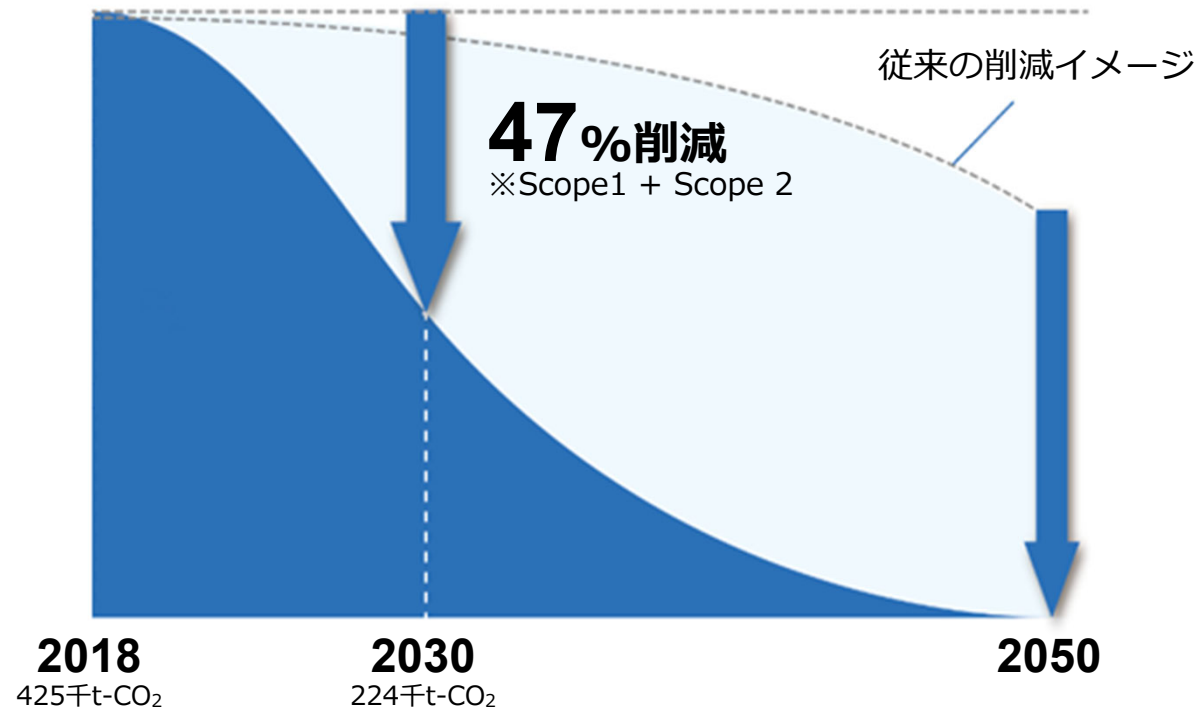
環境への取り組み

2050年に向けたCO₂排出量削減目標

2050年までにカーボンニュートラルを達成する

2030年までにCO₂排出量を2018年度比で47%以上削減する(国内・海外とも)※

2050年に向けたCO₂排出量削減目標



カーボンニュートラルに向けた主な施策

- 省エネルギー設備の導入促進
- 再生可能エネルギーの利用
(太陽光、水力など)
- アルミ合金溶解時の燃焼プロセス制御
- 非化石エネルギーへの転換
(水素やアンモニア等)

※ CO₂排出量は、Scope1とScope2の絶対量

サステナビリティ ESG/SDGs

サステナビリティのトピックス

TCFDへの対応(E)

2023年6月、TCFD提言に基づく情報を開示

特定した機会の実現とリスク管理のための対応を行い、2050年までのカーボンニュートラル達成を目指し、持続可能な社会の実現に貢献する



Green Star Award受賞(E/S)

リョービダイカスティング（タイランド）は、タイ工業団地公社からGreen Star Awardを初めて受賞

植林活動や献血への参加、地域小学校への寄付などが評価された



本社新館建設(E/S)

地域に根差した環境配慮型ビル
多様な働き方に対応した先進的なワークプレイス



健康経営(S)

4年連続4回目の認定



2023
健康経営優良法人
Health and productivity

サステナビリティ ESG/SDGs

サステナビリティのトピックス

取締役・監査役(G)

- 取締役のうち社外取締役は3名(全取締役の60%)
- 伊藤麻美氏(日本電鍍工業株式会社 代表取締役)が2023年3月29日付で当社初の女性社外取締役(独立)に就任

代表取締役
浦上彰取締役
望月達由

* 独立社外役員

取締役*
大岡哲取締役*
伊香賀正彦取締役*
伊藤麻美監査役
鈴木隆監査役*
荒井洋一監査役*
畑川高志

スキルマトリクス(G)

- 当社取締役会を構成する各役員のスکیلバランスは右記の通り
- 取締役会の役割・責務を実効的に果たすための、知識・経験・能力をバランスよく備えており、多様性と適正規模を両立させる形で構成されている

	知識・経験項目	取締役					監査役		
		社内		社外			常勤	非常勤	
		浦上 彰	望月 達由	大岡 哲	伊香賀 正彦	伊藤 麻美	鈴木 隆	荒井 洋一	畑川 高志
1	企業経営	●	●		●	●	●		●
2	グローバル経験	●	●	●		●			●
3	マーケティング	●				●	●		
4	技術		●		●		●		
5	財務・会計			●	●				●
6	人材開発	●		●					
7	リスク管理・ガバナンス・コンプライアンス			●	●	●		●	●
	主な資格など			学識経験者	公認会計士 企業経営者	企業経営者		弁護士	企業経営者

(注) 上記スキルマトリクスは各人の全ての専門性を表すものでなく、特に期待される項目を4つまで記載しております。

5. 財務戰略

財務戦略 -企業価値向上について-

(現状認識)

- 2019年12月以降、業績低迷もあり
当社株価は2,000円以下、PBRも1倍未満で推移
- 当社の成長性が投資者から十分に評価されていない状況と認識
- 7/20付業績上方修正以降、株価が上昇しており、7月末時点のPBRは0.6倍程度まで回復



(施策)

- 事業戦略を確実に遂行し、業績を回復することが最重要
- 更なる収益性向上を目指すことが、ROEの持続的向上・PBR改善に寄与
- 企業価値の持続的な向上に向け株式の適正な評価を得るため以下にも取り組む
 - ✓ 中長期的な戦略や計画の開示
 - ✓ 成長戦略に関する株主や投資家との対話機会の更なる創出

(単位：円)

当社株価推移



財務戦略 -キャッシュアロケーション-

キャッシュアロケーションの基本的な考え方

<p>営業CF (キャッシュ創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> 営業活動によるキャッシュフローの最大化を目指す 戦略品獲得による売上拡大、原価低減、生産性改善の取組みでまずは早期に業績回復、今後見込まれる自動車生産の回復で更なる利益率改善とCF創出を目指す 	<p>投資CF (事業成長に向けた投資)</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイカスト事業における戦略製品(軽量化・電動化部品)やギガキャスト対応に向けた投資は、企業価値向上のために今後も実施していく 財務健全性を確保したうえで成長投資を実施する
<p>CCC*改善/保有資産最適化</p>	<p>株主還元</p> <ul style="list-style-type: none"> 株主還元は配当性向の維持と安定配当を優先する 状況に応じて還元率の向上を検討する 自社株買いについては成長に向けた設備投資の状況に応じて検討する
<p>財務CF (資金調達の基本方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の企業価値向上に向けた投資資金や株主還元の維持・向上等への資金は営業CFを原資とし、必要に応じ外部借入を実施する 環境配慮投資を基本とし、サステナブルファイナンスを積極的に活用する 	

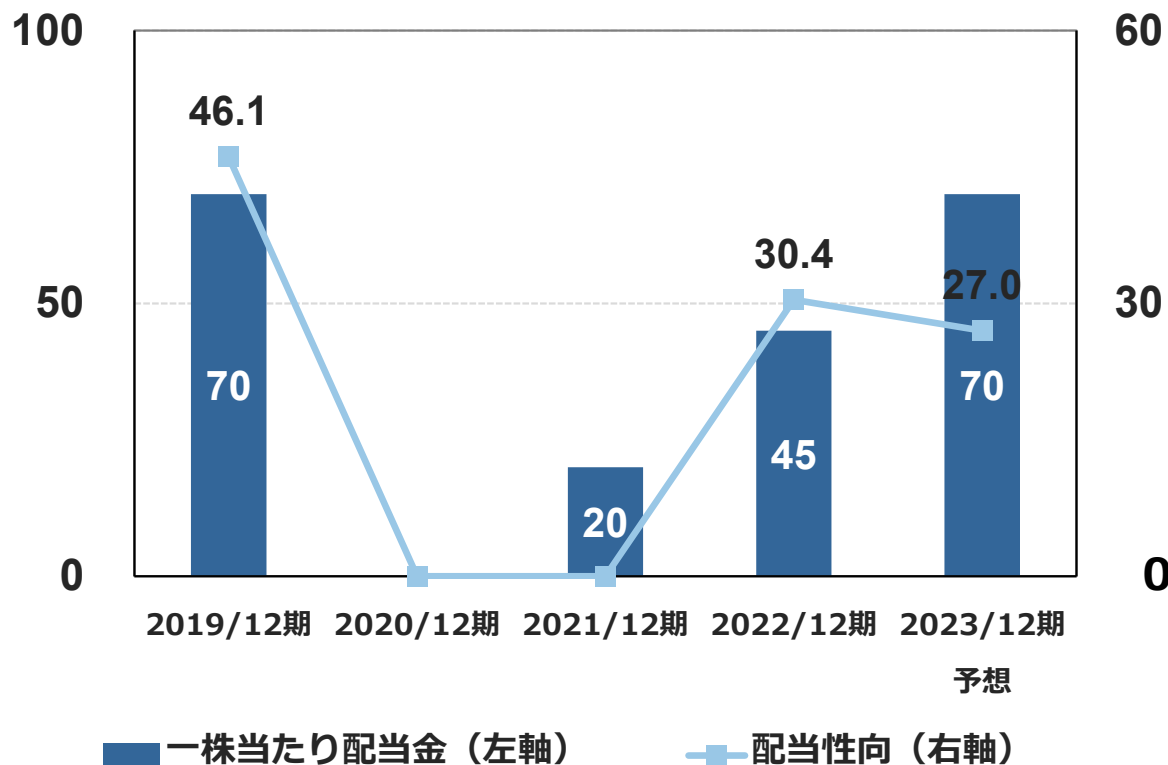
*Cash Conversion Cycle (キャッシュ・コンバージョン・サイクル) の略称
仕入債務を支払ったのちに売上債権の回収までの所要日数を示す財務指標

財務戦略 -株主還元-

一株当たり配当金・配当性向の推移

(単位：円)

(単位：%)



配当政策

- 中長期的に連結業績の向上を図り、成長投資と株主の皆様への安定した利益還元の維持を基本とする
- 安定的な配当継続に加え、配当性向30%程度を目安とし、諸条件を勘案の上決定する

配当の状況

- 2022/12期については、当期の業績及び財務状況等を勘案し、予想比+5円増配（年間45円 前期比+25円）
- 2023/12期は、年間70円の配当を予定

	2019/12期	2020/12期	2021/12期	2022/12期	2023/12期 予想
一株当たり配当金(円)	70	0	20	45	70
配当性向(%)	46.1	-	-	30.4	27.0

将来予測に関する注意事項

当資料には、当社の計画・戦略・業績等の将来予想に関する情報が含まれています。

これらの記載は、現在入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、これにはリスクおよび不確実な要素が含まれています。

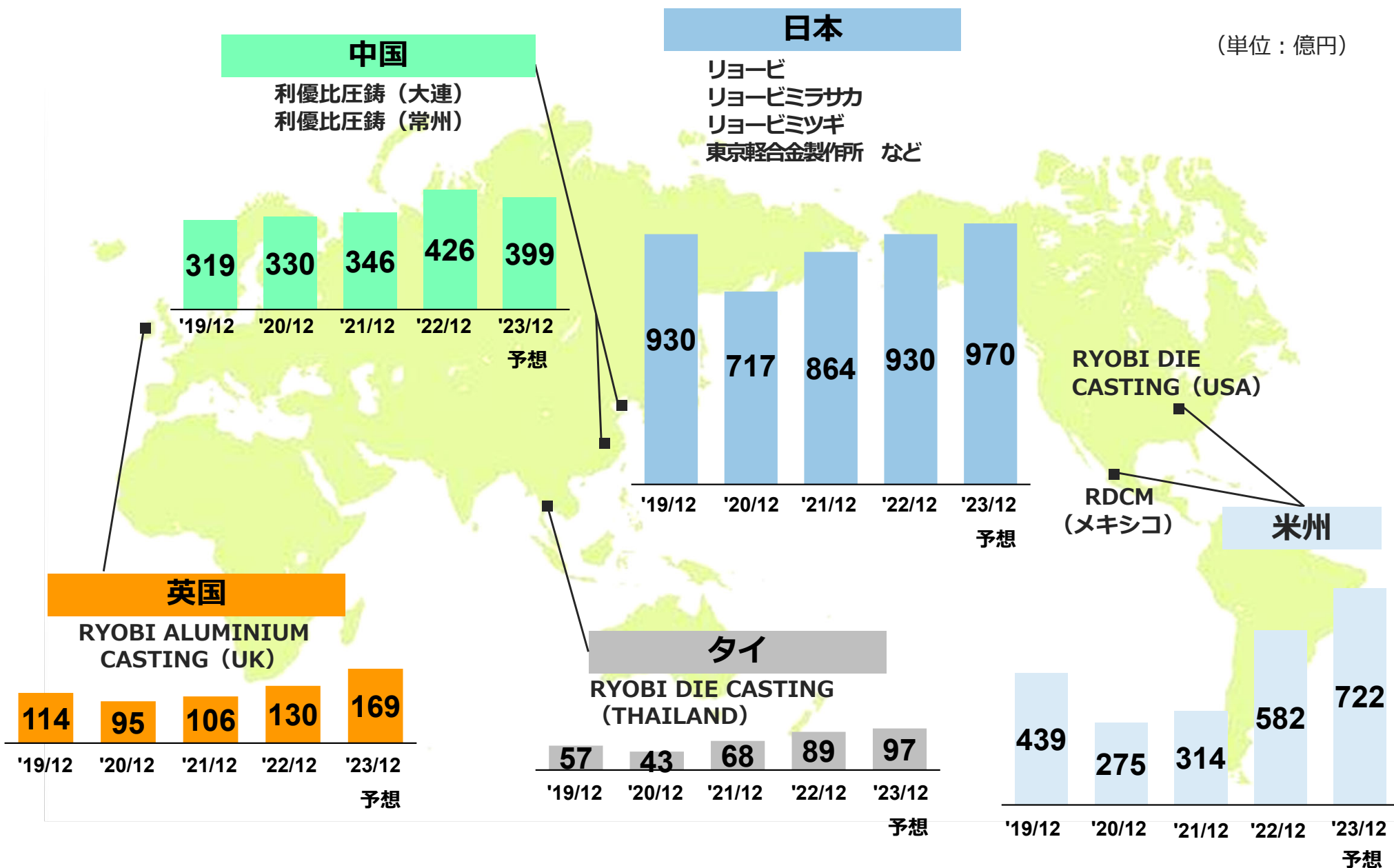
当社の実際の行為、業績は、経済情勢、事業環境、需要動向、為替動向等により、将来予想とは異なる可能性があります。

RYOBI

できたらいいなの、その先へ。

地域別売上高の予想

(単位：億円)



地域別設備投資の予想

(単位：億円)

